



インターシステムズのサポート 対象プラットフォーム

Version 2023.1
2024-01-02

インターシステムズのサポート対象プラットフォーム

InterSystems Version 2023.1 2024-01-02

Copyright © 2024 InterSystems Corporation

All rights reserved.

InterSystems®, HealthShare Care Community®, HealthShare Unified Care Record®, IntegratedML®, InterSystems Caché®, InterSystems Ensemble®, InterSystems HealthShare®, InterSystems IRIS®, および TrakCare は、InterSystems Corporation の登録商標です。HealthShare® CMS Solution Pack™ HealthShare® Health Connect Cloud™, InterSystems IRIS for Health™, InterSystems Supply Chain Orchestrator™, および InterSystems TotalView™ For Asset Management は、InterSystems Corporation の商標です。TrakCare は、オーストラリアおよび EU における登録商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼動および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems Worldwide Response Center (WRC)

Tel: +1-617-621-0700

Tel: +44 (0) 844 854 2917

Email: support@InterSystems.com

目次

1 サポート対象テクノロジー	1
1.1 サポート対象プラットフォーム	1
1.1.1 オペレーティング・システムのパッチおよびサービス・パック	1
1.1.2 サーバ・プラットフォーム	1
1.1.3 コンテナ・プラットフォーム	2
1.1.4 クラウド・プラットフォーム	2
1.1.5 開発プラットフォーム	3
1.1.6 ハードウェアに関する考慮事項	3
1.2 サポートされているファイル・システム	3
1.3 サポート対象の Web サーバ	4
1.4 サポート対象の Web ブラウザ	5
1.5 ODBC のサポート	5
1.6 Node.js のサポート	6
1.7 プラットフォームのエンディアン	6
1.8 サポート対象 SQL ゲートウェイ・データベース	6
1.9 サポート対象 .NET Framework	7
1.10 サポート対象 Java テクノロジー	7
1.11 その他のサポート対象テクノロジー	7
1.12 その他のサポート対象機能	8
2 サポート対象言語	11
2.1 InterSystems IRIS	11
2.2 NLP	12
3 サポート中止のプラットフォームとテクノロジー	13
3.1 サポート中止のテクノロジーと機能	13
3.2 サポート中止のサーバ・プラットフォーム	13
3.3 サポート中止のコンテナ・プラットフォーム	14
3.4 サポート中止のクラウド・プラットフォーム	14
3.5 サポート中止の開発プラットフォーム	14
3.6 サポート対象外となる Java 開発キット	14
4 サポート対象バージョン間の相互運用性	17
4.1 ODBC と JDBC の相互運用性	17
4.2 Web ゲートウェイの相互運用性	17
4.3 バックアップ・リストアの相互運用性	18
4.4 ジャーナル・リストアの相互運用性	18
4.5 ミラーの相互運用性	18
4.6 ミラー・アービター (ISCAgent) の相互運用性	19
4.7 ECP の相互運用性	19
4.8 スタジオの相互運用性	19
5 製品間のテクノロジー・マトリックス	21

1

サポート対象テクノロジー

このページでは、インターシステムズ製品でサポートされているテクノロジーのリストを示します。

1.1 サポート対象プラットフォーム

このリリースでは、以下のリストに示したサーバ・プラットフォームおよびオペレーティング・システムのバージョンが、それぞれのインターシステムズ社製品でサポートされています。

- ・ [サーバ・プラットフォーム](#)
- ・ [コンテナ・プラットフォーム](#)
- ・ [クラウド・プラットフォーム](#)
- ・ [開発プラットフォーム](#)

1.1.1 オペレーティング・システムのパッチおよびサービス・パック

インターシステムズでは、互換性の確保はオペレーティング・システム・ベンダに依存しているため、特定のオペレーティング・システムのパッチまたはサービス・パックに対する当社製品の保証はしておりません。

インターシステムズ社製品の実行時に特定のパッチやサービス・パック (SP) を適用する必要がある場合には、該当する表に要件を明記しています。

ベンダがベース・バージョンに新機能を導入して新しい製品を作成した場合、インターシステムズは追加のテストを行わず、ベース・バージョンの品質を保証するベンダを信頼しています。

1.1.2 サーバ・プラットフォーム

プラットフォーム	メモ
IBM AIX® 7.2, 7.3 (POWER System-64) (POWER 7 以降)	InterSystems IRIS for AIX は、IBM XL C/C++ for AIX 17.1.0 コンパイラを使用してコンパイルされます。InterSystems IRIS のインストール先のシステムに、既にインストールされているランタイムに対応するバージョンがない場合は、インストールする必要があります。 詳細は、 https://www.ibm.com/support/home/ を参照してください。

プラットフォーム	メモ
Microsoft Windows Server 2012、Server 2016、Server 2019、Server 2022、10、11 (x86-64)	
Oracle Linux 8.2+、9.0 (x86-64)	変更されていないカーネル。
Red Hat Enterprise Linux 8.2、8.4、8.6 (x86-64 または ARM64) Red Hat Enterprise Linux 9.0 (x86-64 または ARM64)	Red Hat プラットフォームで Kerberos を使用するには、krb5-libs パッケージに追加して krb5-devel パッケージをインストールする必要があります。このコンポーネントのダウンロードの詳細は、“インストール・ガイド”の“InterSystems IRIS のインストール準備”の章の“ Red Hat Linux プラットフォームの問題 ”のセクションを参照してください。
SUSE Linux Enterprise Server 15 SP3 または SP4 (x86-64)	
Ubuntu 20.04、22.04 LTS (x86-64 または ARM64)	Ubuntu の既定の設定では、セマフォが削除されることがあります。詳細は、“インストール・ガイド”の“InterSystems IRIS のインストール準備”の章の“Ubuntu プラットフォームの問題”のセクションを参照してください。

1.1.3 コンテナ・プラットフォーム

インターシステムズのコンテナ・イメージは Open Container Initiative ([OCI](#)) の仕様に準拠しており、Docker Enterprise Edition エンジンを使用して構築されます。このエンジンは、OCI 標準を全面的にサポートしており、これによってイメージは[認定](#)され、Docker Hub レジストリで公開することができます。したがって、インターシステムズのコンテナは、オンプレミスとパブリック・クラウドの両方において、Linux ベースのオペレーティング・システム上の任意の OCI 準拠ランタイム・エンジンでサポートされます。

インターシステムズのコンテナ・イメージは、Ubuntu を基本オペレーティング・システムとして使用して構築およびテストされます。これらのイメージは、以下に示す CPU アーキテクチャで使用できます。

イメージのオペレーティング・システム	CPU アーキテクチャ
Ubuntu 20.04、22.04	<ul style="list-style-type: none"> Intel/AMD 64 ビット ARM 64 ビット

* メンテナンス・リリース 2022.1.1 で新規サポート

1.1.4 クラウド・プラットフォーム

InterSystems IRIS は、以下の条件のいずれも満足するクラウド・プラットフォームに導入できます。

- ・ オペレーティング・システムのプラットフォームが、サポート対象の[サーバ・プラットフォーム](#)に該当する。
- ・ クラウド・プラットフォームが、インフラストラクチャのサポートを提供している。

クラウド仮想マシン上でミラーリングを使用されているお客様は、パブリック・クラウドでのミラーリングには、仮想 IP アドレスではない IP アドレスが必要であることに注意する必要があります。

1.1.5 開発プラットフォーム

リストされたサーバ・プラットフォームに加えて、開発作業には以下のプラットフォームがサポートされています。

プラットフォーム	メモ
CentOS Stream 8 x86-64*	InterSystems IRIS キット (Red Hat) が必要です。
Apple macOS 11 (x86-64)	InterSystems IRIS には、このプラットフォーム上で動作するための依存関係がいくつか必要です。詳細は、“必要な依存関係のインストール”を参照してください。 Key Management Interoperability Protocol (KMIP) は macOS ではサポートされません。

* 今回のリリースで新規サポート。

開発プラットフォームのサポートは、以下の条件に従います。

- 開発プラットフォームは、アプリケーションの開発にのみ使用されます。アプリケーションの運用はサポートされません。
- InterSystems は、比較分析の結果に同意するものではありません。サポートされる開発プラットフォームと他のサポートされるプラットフォームに関して得られるパフォーマンス、サイジング、およびその他の測定結果から有効な結論を引き出すことはできません。
- インターシステムズは、これらのプラットフォームに対するサポートの継続について、InterSystems IRIS のメジャー・リリースごとに再評価します。

1.1.6 ハードウェアに関する考慮事項

ほとんどの場合、このドキュメントでは、オペレーティング・システムのバージョンについて詳しく説明し、基盤となるハードウェアの特性については一般的な内容のみ説明します。この節では、そのアプローチを少し進めて、インターシステムズの製品が認めて利用している、各ハードウェアが提供する優れた機能について説明しています。

Advanced Encryption Standard (AES)

InterSystems IRIS では、Intel 64 ビット・プロセッサ (Intel® Xeon® Processor (Westmere) 以降) での動作時に、ハードウェア命令を直接使用して AES 暗号化が実行されます。

1.2 サポートされているファイル・システム

このリリースでは、指定されたプラットフォームで、以下のファイル・システムがサポートされています。

プラットフォーム	推奨されるファイル・システム	その他のサポート対象ファイル・システム
Apple macOS (x86-64)	HFS	APFS
IBM AIX® (POWER System-64) (POWER 7 以降)	JFS2 ³	
Microsoft Windows (x86-64)	NTFS	
Oracle Linux (x86-64)	XFS	

プラットフォーム	推奨されるファイル・システム	その他のサポート対象ファイル・システム
Red Hat Enterprise Linux (x86-64 または ARM64)	XFS	ext3 ¹ 、ext4 ^{1,2} 、NFS
SUSE Linux Enterprise (x86-64)	XFS	Btrfs、ext3 ¹ 、ext4 ^{1,2} 、NFS、VxFS ³
Ubuntu (x86-64 または ARM64)	XFS	Btrfs、ext3 ¹ 、ext4 ^{1,2} 、NFS

¹ ext3/ext4 ファイル・システムでは data=journal マウント・オプションはサポートされていません。

² Linux を使用するときは、ジャーナル/WIJ に ext4 ファイル・システム、データ・ファイル用に XFS ファイル・システムを使用することをお勧めします。

³ ジャーナリングのパフォーマンスを最適化するには、サポート対象のすべてのプラットフォーム上で、JFS2 および VxFS ファイル・システムに cio マウント・オプションを使用することを推奨します。VxFS 上で cio を使用できない場合、ダイレクト I/O を有効にしたマウント (ファイル・システムのマウント・オプション mincache=direct,convosync=direct) がジャーナリングでサポートされます。

1.3 サポート対象の Web サーバ

このリリースでは、以下に示すプラットフォームの Web サーバで CSP テクノロジをサポートします。これは、すべてのインターシステムズ社製品がこれらのプラットフォーム上で動作するというのではなく、インターシステムズの Web ゲートウェイ・コンポーネントがこれらのプラットフォーム上で動作することです。

Web サーバ	プラットフォーム
Apache 2.4	<ul style="list-style-type: none"> Apple macOS IBM AIX® (POWER System) (POWER 7 以降)* Microsoft Windows Oracle Linux Red Hat Enterprise Linux SUSE Linux Enterprise Ubuntu
Microsoft IIS 7.0 以降	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows
Nginx (Stable)	<ul style="list-style-type: none"> Apple macOS IBM AIX® (POWER System) (POWER 7 以降) Microsoft Windows Red Hat Enterprise Linux SUSE Linux Enterprise Ubuntu

* 64 ビットの UNIX® プラットフォームで Web ゲートウェイに Kerberos セキュリティおよび SSL を使用するには、64 ビットの Apache が必要です。

1.4 サポート対象の Web ブラウザ

InterSystems IRIS は、以下の表にリストされている Web ブラウザで CSP をサポートしています。

ブラウザ・プラットフォーム

以下の表にリストされているブラウザより新しいバージョンもサポートされます。ただし、重大な問題が発生することがあり、その場合は InterSystems IRIS のメジャー・リリースで修正する必要があります。この点を理解しておいてください。それらの修正プログラムは、これより古いリリースの InterSystems IRIS にさかのぼって移植されることはありません。

また、ブラウザは、XML HTTP インタフェースをサポートしている必要があります。これにより、一部の旧バージョンのブラウザのサポートが制限されます。

プラットフォーム	サポート対象 Web ブラウザ
Windows	Chrome、Edge、Firefox、Opera
Linux	Firefox
Android	Chrome
iOS	Safari
macOS	Chrome、Firefox、Opera、Safari

ポータル

InterSystems IRIS 管理ポータルに対するサポートは、以下の表にリストされているブラウザに限定されています。特に明記されていない限り、これには、InterSystems IRIS® Business Intelligence 機能のサポートが含まれます。これ以降にベンダによってリリースされるバージョンは、下位互換性があるものと想定されています。これらのバージョンは**サポート対象の Web ブラウザ**の説明に従ってサポートされ、利用可能になったときにテストされます。

Web ブラウザ (プラットフォーム)	バージョン
Chrome (Windows、macOS)	最新のリリース
Edge (Windows)*	最新のリリース
Firefox (Windows、macOS、Linux)	最新のリリース

* 現在のところ、InterSystems IRIS® Business Intelligence のすべての機能が Microsoft Edge に対応しているわけではありません。

1.5 ODBC のサポート

インターシステムズ社製品では、ほとんどのプラットフォームにおいて、マルチスレッド ODBC をサポートします。

UNIX® ベースのシステム上の InterSystems ODBC ドライバは、以下のドライバ・マネージャをサポートしています。

- Unicode と 8 ビットの ODBC API で使用する iODBC ドライバ・マネージャ (<http://www.iodbc.org> を参照) は、select 実行可能ファイルおよび以下のドライバで機能します。

libirisodbc35.so	iODBC 3.5 ドライバ
libirisodbcw35.so	iODBC 3.5 Unicode ドライバ

- 8 ビットの ODBC API のみで使用する unixODBC ドライバ・マネージャ (<http://www.unixodbc.org> を参照) は、selectu 実行可能ファイルおよび以下のドライバで機能します。

libirisodbc35.so	unixODBC リアル・モード・ビルド 3.5 ドライバ
------------------	-------------------------------

1.6 Node.js のサポート

このリリースでは、“サポート対象サーバ・プラットフォーム”のテーブルに記載されているプラットフォームおよびオペレーティング・システムのバージョンで Node.js クライアントをサポートします。インストールと構成の詳細は、“Native SDK for Node.js”を参照してください。

1.7 プラットフォームのエンディアン

バックアップをリストアする場合やデータベースを転送する場合、リストア先や転送先のシステムでは、ソース・システムと同じエンディアン (ビッグ・エンディアンまたはリトル・エンディアン) を使用している必要があります。例えば、ビッグ・エンディアン・システム上で作成したバックアップを、リトル・エンディアン・システムにリストアすることはできません。詳細は、“専用のシステム/ツールおよびユーティリティ”の“[cvendian を使用したビッグ・エンディアン・システムとリトル・エンディアン・システム間の変換](#)”のセクションを参照してください。

以下のテーブルに、今回のリリースのサポート対象サーバ・プラットフォームのエンディアンを示します。

プラットフォーム	エンディアン
Apple macOS (x86-64)	リトル・エンディアン
IBM AIX® (POWER System-64)	ビッグ・エンディアン
Microsoft Windows (x86-64)	リトル・エンディアン
Oracle Linux (x86-64)	リトル・エンディアン
Red Hat Enterprise Linux (x86-64 または ARM64)	リトル・エンディアン
SUSE Linux Enterprise Server (x86-64)	リトル・エンディアン
Ubuntu (x86-64 または ARM64)	リトル・エンディアン

1.8 サポート対象 SQL ゲートウェイ・データベース

InterSystems IRIS SQL ゲートウェイは、以下の条件の下で InterSystems IRIS から外部データベースへのアクセスをサポートしています。

- 外部データベースが、その製造元によってサポートされている。例えば、Oracle 10g が Oracle による拡張メンテナンスの対象である期間、InterSystems IRIS は Oracle 10g への接続をサポートします。

- ・ 接続ドライバが適切なプロトコルに準拠している。InterSystems IRIS は、ODBC 3.0 ～ 3.7 と JDBC 4.0 ～ 4.3 をサポートしています。

SQL ゲートウェイは、InterSystems IRIS の SQL 言語を使用して外部データベースにクエリを発行する機能を提供します。インターシステムズでは、以下のデータベース・システムの最新バージョンを対象として、これらの機能を定期的にテストしています。

- ・ IBM Db2
- ・ IBM Informix
- ・ Microsoft SQL Server
- ・ MySQL
- ・ Oracle
- ・ Sybase Adaptive Server Enterprise

1.9 サポート対象 .NET Framework

このリリースでは、以下の Microsoft .NET Framework をサポートします。

- ・ .NET 5 および .NET 6
- ・ .NET Framework 4.5 (Visual Studio 2012)、4.0 (Visual Studio 2010)、および 2.0 (Visual Studio 2005)
- ・ .NET Core 2.0 (Visual Studio 2017)

注釈 .NET Framework が Kerberos を直接サポートしていないため、InterSystems IRIS .NET クライアントは Kerberos をサポートしていません。

1.10 サポート対象 Java テクノロジ

InterSystems の Java 製品には、Oracle の Java 開発キット (JDK) または互換性のある JDK が必要です。このリリースでは、以下の JDK をサポートします。

開発キット	バージョン
Java SE 開発キット (JDK)	8、11
OpenJDK	8、11

Windows Terminal Server 上で Java を実行する際に、インターシステムズ社製品ライセンス共有の利用をご希望の場合は、インターシステムズまでお問い合わせください。

1.11 その他のサポート対象テクノロジー

これまで紹介したテクノロジーのほか、このリリースでは以下のテーブルに示すテクノロジーをサポートしています。

サポート対象ライブラリ	バージョン
ICU	69.1
Xerces	3.2
Xalan	1.12*
OpenSSL	インスタンス固有。インスタンスによって使用されているバージョンを判別するには、 \$SYSTEM.Encryption.OpenSSLVersion() を呼び出します。

* 今回のリリースで新規サポート。

ODBC ドライバ・マネージャ	バージョン
unixODBC	2.3.4
iODBC	3.52.4

1.12 その他のサポート対象機能

インターシステムズ製品は、以下の表に示すように、LDAP プロトコル、マルチスレッド・コールイン、T-SQL プログラミング拡張機能、MQ インタフェース、および組み込み Python をサポートします(サポート対象のオペレーティング・システムのバージョンは、“[サポート対象サーバ・プラットフォーム](#)” のテーブルに記載されています)。

プラットフォーム	サポート対象機能	組み込み Python としてサポートされているバージョンの Python
Apple macOS (x86-64)	LDAP、T-SQL、組み込み Python	Python 3.9 (homebrew を使用してインストール) ²
IBM AIX® (POWER System-64) (POWER 7 以降)	LDAP、T-SQL、MQ インタフェース ¹	N/A
Microsoft Windows (x86-64)	LDAP、マルチスレッド・コールイン、T-SQL、MQ インタフェース ¹ 、 組み込み Python	Python 3.9 (InterSystems IRIS インストーラに同梱) ²
Oracle Linux (x86-64)	LDAP、マルチスレッド・コールイン、T-SQL、MQ インタフェース ¹ 、 組み込み Python	Python 3.6 ²
Red Hat Enterprise Linux (x86-64 または ARM64)	LDAP、マルチスレッド・コールイン、T-SQL、MQ インタフェース ¹ 、 組み込み Python	Python 3.6 ²
SUSE Linux Enterprise (x86-64)	LDAP、マルチスレッド・コールイン、T-SQL、MQ インタフェース ¹ 、 組み込み Python	Python 3.6 ²

プラットフォーム	サポート対象機能	組み込み Python としてサポートされているバージョンの Python
Ubuntu (x86-64 または ARM64)	LDAP、マルチスレッド・コールイン、T-SQL、MQ インタフェース ¹ 、 組み込み Python	Ubuntu 20.04: Python 3.8 ² Ubuntu 22.04: Python 3.10 ²

¹ InterSystems IRIS では、WebSphere MQ V7.0 以降をサポートしています。

² 詳細は、“組み込み Python の使用法”の“前提条件”セクションを参照してください。

2

サポート対象言語

InterSystems IRIS は、指定された地域で 1 つ以上の文字セットによる各国語サポート (NLS) を提供しています。また、いくつかの言語では、InterSystems IRIS ユーティリティのメニューなどが翻訳されています。ローカライズされている言語は、次のテーブルのとおりです。

InterSystems IRIS ドキュメントには英語版と日本語版があります。

2.1 InterSystems IRIS

InterSystems IRIS のこのリリースでは、以下の表に示す言語をサポートしています。

言語	文字セット	ユーティリティの翻訳
アラビア語	CP1256 (アラビア語)、ラテン語/アラビア語、Unicode	
中国語 (簡体字)	GB18030 (中国国家標準)、Unicode	
中国語 (繁体字)	Unicode	
中国語 (標準中国語)	Unicode	あり
チェコ語	CP1250 (中央ヨーロッパ)、Latin-2、Unicode	
デンマーク語	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	
オランダ語	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	あり
英語	ASCII [†] 、Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	あり
フィンランド語	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	
フランス語	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	あり
ドイツ語	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	あり
ギリシャ語	CP1253 (ギリシャ語)、Latin-G、Unicode	
ヘブライ語	CP1257 (ヘブライ語)、Latin-H、Unicode	
ハンガリー語	CP1250 (中央ヨーロッパ)、Latin-2、Unicode	
イタリア語	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	あり
日本語	Unicode	あり

言語	文字セット	ユーティリティの翻訳
韓国語	Unicode	あり
リトアニア語	CP1257 (バルト語)、Latin-4、Latin-6、Latin-7、Unicode	
マルタ語	Latin-3、Unicode	
ポーランド語	CP1250 (中央ヨーロッパ)、Latin-2、Unicode	
ポルトガル語 (ブラジル)	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	あり
ロシア語	CP1251 (キリル文字)、Latin-C、Unicode	あり
スロバキア語	Unicode	
スロベニア語	Unicode	
スペイン語	Latin-1、Latin-9、CP1252 (西ヨーロッパ)、Unicode	あり
タイ語	CP874 (タイ語)、Latin-T、Unicode	
トルコ語	Unicode	
ウクライナ語	Unicode	あり

† アメリカ英語のみ。

2.2 NLP

このリリースにおいて、自然言語処理でサポートされている言語は以下のとおりです。

- ・ オランダ語
- ・ 英語
- ・ フランス語
- ・ ドイツ語
- ・ 日本語
- ・ ポルトガル語
- ・ ロシア語
- ・ スペイン語
- ・ スウェーデン語
- ・ ウクライナ語

3

サポート中止のプラットフォームとテクノロジー

このページでは、このリリースでサポートされなくなったプラットフォームとテクノロジーについて説明します。

3.1 サポート中止のテクノロジーと機能

インターシステムズでは、より新しいオプションやより優れたオプションが利用可能になった場合、テクノロジーの開発を中止します。ただし、これらの機能に対する製品サポートは、[最小サポート・バージョン](#)以上の製品に対するサポートと同様に続行されます。

非推奨とは、インターシステムズが積極的に開発しなくなった、より優れたオプションが存在する機能またはテクノロジーを示します。新規開発では、非推奨のアイテムは使用しないでください。非推奨の指定は、顧客が機能またはテクノロジーの使用を排除するよう計画すべきことを示します。インターシステムズは、非推奨の製品機能をサポートするためのスタッフの専門知識を維持しています。例として、Zen や Zen Reports などがあります。

サポート中止とは、既存のアプリケーションのものであっても、もはや使用できなくなった機能またはテクノロジーを示します。インターシステムズは、このようなテクノロジーを使用し続けることは、顧客にとってリスクであると考えます。この理由の一部を以下に示します。

- ・ 使用が減少し、顧客が少数になった。
- ・ 機能が、最新のテクノロジーまたはセキュリティ手法と互換しなくなった。
- ・ 機能またはテクノロジーと最新の製品実装との間に互換性がなくなったことで、アプリケーションの保守に多大なコストがかかる。
- ・ 機能またはテクノロジーが、サードパーティのサポート中止コンテンツに依存している。

例として、DCP (ECP に取って代わられた分散キャッシュ・プロトコル)、WebLink および Caché Direct (Visual M/VISM) があります。

3.2 サポート中止のサーバ・プラットフォーム

今回のリリースは、以下に示すサーバ・プラットフォームのバージョンでは利用できません。

プラットフォーム	サポートを中止した最初のバージョン
Red Hat Enterprise Linux 7.9 (x86-64)	バージョン 2022.2
Red Hat Enterprise Linux 7.0 ~ 7.8	バージョン 2021.2
SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3	バージョン 2021.2
SUSE Linux Enterprise Server 12	バージョン 2019.1
Ubuntu 18.04 LTS	バージョン 2022.2
Ubuntu 16.04 LTS	バージョン 2019.1

3.3 サポート中止のコンテナ・プラットフォーム

今回のリリースは、以下に示すコンテナ・ベース OS のバージョンでは利用できません。

コンテナ・ベース OS	サポートを中止した最初のバージョン
Ubuntu 18.04 LTS	バージョン 2021.2
Ubuntu 16.04 LTS	バージョン 2019.1

3.4 サポート中止のクラウド・プラットフォーム

今回のリリースは、以下に示すクラウド・プラットフォームのバージョンでは利用できません。

プラットフォーム	サポートを中止した最初のバージョン
Ubuntu 10.04 LTS	バージョン 2019.1
SUSE Linux Enterprise Server 12	バージョン 2019.1

3.5 サポート中止の開発プラットフォーム

以下に示すバージョンの開発プラットフォームでは今回のリリースを利用できません。

プラットフォーム	サポートを中止した最初のバージョン
Apple macOS 10.13、10.14、10.15	バージョン 2021.2
CentOS-7	バージョン 2022.2

3.6 サポート対象外となる Java 開発キット

今回のリリースでは、以下に示す Java Enterprise 仕様は利用できません。

Java 開発キット	サポートを中止した最初のバージョン
JDK 1.7	バージョン 2020.1

4

サポート対象バージョン間の相互運用性

このページでは、InterSystems IRIS® データ・プラットフォームの各コンポーネントがどのリリースで利用できるかについて説明します。

注釈 このページ全体を通して、“バージョン 2023.1” は InterSystems IRIS バージョン 2023.1 を指します。

InterSystems IRIS とインターシステムズの他のソフトウェアとの互換性の詳細は、WRC 配布サイトの Docs にある “InterSystems IRIS 移行ガイド” を参照してください。

4.1 ODBC と JDBC の相互運用性

InterSystems IRIS の ODBC クライアントおよび JDBC クライアントには、InterSystems IRIS の以前のバージョンすべての後方互換性があります。これまでよりも新しいバージョンの InterSystems IRIS でクライアントを使用することはサポートされていません。

InterSystems IRIS サーバをアップグレードする前にクライアント・ライブラリをアップグレードすることをお勧めします。

ODBC クライアントおよび JDBC クライアントとサーバとのバージョンの相互運用性を以下の表に示します。

クライアントのバージョン	サーバのバージョン
2023.1	2018.1 ~ 2023.1
2022.3	2018.1 ~ 2022.3
2022.2	2018.1 ~ 2022.2
2022.1	2018.1 ~ 2022.1
2021.1	2018.1 ~ 2021.1
2020.1	2018.1 ~ 2020.1

4.2 Web ゲートウェイの相互運用性

InterSystems Web ゲートウェイには、以前のバージョンの InterSystems IRIS との後方互換性があります。これまでよりも新しいバージョンの InterSystems IRIS で以前のバージョンの Web ゲートウェイを使用することはサポートされていません。

InterSystems IRIS サーバをアップグレードする前に Web ゲートウェイをアップグレードすることをお勧めします。

Web ゲートウェイと InterSystems IRIS とのバージョンの相互運用性を以下の表に示します。

Web ゲートウェイのバージョン	InterSystems IRIS の互換バージョン
2023.1	2018.1 ~ 2023.1
2022.3	2018.1 ~ 2022.3
2022.2	2018.1 ~ 2022.2
2022.1	2018.1 ~ 2022.1
2021.1	2018.1 ~ 2021.1
2020.1	2018.1 ~ 2020.1

4.3 バックアップ・リストアの相互運用性

バックアップは必ず、バックアップを作成したインスタンスと同じバージョンまたはそれ以降のバージョンの InterSystems IRIS インスタンス上にリストアする必要があります。その理由は、古いバージョンの InterSystems IRIS では新しい機能を処理できないことがあるからです。

4.4 ジャーナル・リストアの相互運用性

ジャーナル・ファイルを作成したインスタンスと同じバージョンまたはそれ以降のバージョンの InterSystems IRIS インスタンス上でのみ、ジャーナル・ファイルのリストアが保証されています。インスタンスのバージョンがジャーナル・ファイルを作成したインスタンスよりも古い場合、ジャーナルのリストア・プロセスで不明なジャーナル・レコード・タイプが検出されるとエラーになることがあります。新しい方のバージョンに導入されている機能で、このエラーが発生することが考えられます。例えば、InterSystems IRIS 2022.2 で列指向ストレージに導入された新しいジャーナル・レコード・タイプは、以前のバージョンでは認識できません。機能の互換性を確保するために、使用している InterSystems IRIS バージョンで利用可能な最新のメンテナンス・リリースに必ずアップグレードすることを強くお勧めします。

4.5 ミラーの相互運用性

ミラーのすべてのメンバを、同じバージョンの InterSystems IRIS 上で実行する必要があります。これには、以下の 2 つの例外があります。

1. ミラーをアップグレードしているときは、ミラー・メンバをそれぞれ異なるバージョンで実行できます。“インストール・ガイド”の“InterSystems IRIS のアップグレード”にある“[ミラーのアップグレード](#)”を参照してください。アップグレード済みのミラー・メンバがプライマリになると、相手側のフェイルオーバー・メンバやあらゆる DR 非同期メンバは、そのアップグレードが完了するまで、プライマリになることもアプリケーションにアクセスすることもできなくなります。
2. 以下の理由により、非同期メンバをミラーの他のメンバとは別のバージョンで実行できます。
 - ・ 幅広いアップグレード方針の一環として、一定の延長期間、DR 非同期メンバの実行を旧バージョンで継続できます。例えば、プライマリ・メンバとバックアップ・メンバのアップグレード後にフォールバックする場合があります。

- ・ プライマリ・メンバおよびバックアップ・メンバのアップグレードが保証されていない場合、新しいレポート機能を利用するために、レポート非同期メンバを新しいバージョンで実行できます。

ミラーリングはジャーナリングに依存しています。したがって、前のセクションで取り上げた制限事項と推奨がここにも当てはまります。

4.6 ミラー・アービター (ISCAgent) の相互運用性

アービターとして機能する ISCAgent は、ミラーの中でその構成相手となっているメンバと同じバージョンの InterSystems IRIS で実行する必要はありません。必ず接続先の各ミラー・メンバで使用されている最新バージョン以上のバージョンでアービターを実行することをお勧めします。ISCAgent の最新バージョンを確実に使用できるよう、ミラー・メンバのアップグレード時にアービターもアップグレードすることをお勧めします。

4.7 ECP の相互運用性

ECP には InterSystems IRIS のバージョンとの後方互換性と前方互換性があります。コンパイルしたルーチンとクラス定義も、この互換性の対象となります。これらの定義は ECP 経由で渡され、別のバージョンの InterSystems IRIS を実行しているインスタンス上で実行できます。ただし、ECP 接続両側のアプリケーション・コードに互換性があることが必要です。例えば、別々の ECP サーバで別々のビジネス・ロジックを実行するコードでは、アプリケーションの総合的な動作が予測不能になります。

ECP を介して接続している InterSystems IRIS のすべてのバージョンと各機能の使用状態との間に互換性を確保することをお勧めします。例えば、InterSystems IRIS 2021.2 では透過的なストリーム圧縮を導入しています。ECP を介して新しいサーバから古いサーバにストリーム・データを書き込む場合、透過的なストリーム圧縮をサポートしていないバージョンを実行しているサーバでは、そのストリーム・データを読み取ることができません。このような互換性の欠如が存在し得ることから、一般的にメンテナンス・リリースで対処されます。使用しているバージョンの InterSystems IRIS で利用可能な最新のメンテナンス・リリースに、**ECP 構成を必ずアップグレード**することを強くお勧めします。

4.8 スタジオの相互運用性

スタジオには、以前のサポート対象バージョンの InterSystems IRIS との後方互換性があります。これまでよりも新しいバージョンの InterSystems IRIS でスタジオを使用することはサポートされていません。

スタジオと InterSystems IRIS とのバージョンの相互運用性を以下の表に示します。

スタジオのバージョン	InterSystems IRIS の互換バージョン
2023.1	2018.1 ~ 2023.1
2022.3	2018.1 ~ 2022.3
2022.2	2018.1 ~ 2022.2
2022.1	2018.1 ~ 2022.1
2021.1	2018.1 ~ 2021.1
2020.1	2018.1 ~ 2020.1

5

製品間のテクノロジー・マトリックス

一般に、InterSystems IRIS の接続コンポーネントには、古いインターシステムズ製品との互換性はありません。ただし、いくつかの例外があります。製品間の互換性に関する詳細は、“InterSystems IRIS 移行ガイド”の“共存と互換性”を参照してください。このガイドは、[WRC のドキュメント配布ページ](#)からダウンロードできます (ログインが必要です)。

